

文部科学省「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」

富山型教員養成プログラムにおける
教員採用内定者を対象とした教師準備期プログラムの実施

平成25年度
教師準備プレ講座

4月から教壇に立つみなさんへ

報 告 書



富山大学人間発達科学部



富山県教育委員会 連携

はじめに

富山県では「近年の教育環境の急激な変化に鑑み、本県の学校現場が求める能力を身につけるための教員養成課程のあり方及び教員の資質向上について検討を行うため（富山県教員養成課程等検討会報告書、平成25年3月28日）」検討会が設置され議論が重ねられてきました。その報告書の中には「富山型教員養成プログラム」の骨格が示されており、その基本的な考え方として次の3点が挙げられています。

- ・ 大学4年間を見通した総合的・体系的プログラム
- ・ 教員養成課程の各段階での大学の授業と学校現場との往還的な学習
- ・ 大学と学校・教育委員会等との連携による、より実践的な指導力の育成

これを具体化するプログラムの最後に位置付けられていたのが「教員採用内定者を対象とした教師準備期プログラム」です。

折よく、文部科学省から『平成25年度 教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業』の公募があり、富山県教育委員会と富山大学人間発達科学部の連携事業として申請したところ幸運にも採択され、本講座の初年度を文部科学省の支援を受けて開講することができました。

本講座の報告書を作成するにあたり、企画から実施までの全ての段階において御支援を頂きました全ての方々には心より御礼申し上げます。また特に、御多忙の中、本講座の趣旨に御賛同下さり講師をお引き受け下さった6名の方々に深く感謝申し上げます。この講座が、4月から教壇に立たれる先生方の励みや支えとなり、ひいてはそれが富山県の未来を担う子供たちのためになることを願い、また必ずそうなるであろうと信じています。



御挨拶

富山県教育委員会教育長 寺井 幹 男



採用内定者のみなさま、採用内定おめでとうございます。

本県教育は、教育熱心な県民性、生きる力を育む豊かな自然、そして、優れた教育実践など、本県ならではの歴史と風土に支えられ、数多くの人材を輩出してきました。皆さんには、ぜひこの「教育県富山」の教員の一人となることに自覚と誇りをもち、根無し草ではなく、しっかりと根を張って日々の教育活動に取り組んでいただきたいと思います。

「教育は人なり」といわれますが、人づくりを支えるもっとも大切な基盤は優秀な教員であり、そのような教員がいてこそ人づくりがかないます。

「百年の計は、人を樹うるに如くはなし。」これは、置県百二十年を記念して県庁前に設置した「ひとづくり記念碑」に記されたことばです。人づくりこそ、富山県百年の大計であり、未来を拓く鍵であります。

初めから完成された教師などはいないわけですが、失敗や困難を乗り越えた先に、教師として人間としての成長があります。

また、みなさん自身が自己の人格を築くために、常に研鑽を続ける教員であり続けることも大切です。人格の完成に終結はなく、様々な経験を通して数多くのことを習得することが必要です。子ども達との関わり方や授業に関する知識、技術などを常に学び続ける姿勢をもち、積極的に吸収してほしいと思います。そして、自分自身と真剣に向き合い、自己を高める姿勢を保ち続けるなかで、同僚と大いに語り合いながら、子ども達を教え育むことのすばらしさを実感してもらいたいと思います。

皆さんの健闘を祈ります。

御挨拶

富山大学人間発達科学部長 神川 康子



子どもたちの教育を取り巻く環境の変化と教員の大量退職期に対応し、優秀な教育人材の確保と育成は富山県においても喫緊の課題となっています。そこで平成24年1月に富山県の学校現場が求める教員の資質・能力と、その向上のための研修や、大学における教員養成課程の在り方について検討するために、富山県教育委員会からの受託研究として富山県内の教員を対象とした調査を実施し、1356名から回答を得ました。その結果、若手教員は「指導技術」「学級経営能力」「教材研究・教材解釈」「児童生徒への愛情」「豊かな人間性」を、管理職教員は「児童生徒への愛情」「熱意」「学級経営能力」「指導技術」「使命感」「豊かな人間性」「教材研究・教材解釈」を重視していることが分かりました。

そこでこれらの結果を踏まえて「富山型教員養成プログラム」を検討し、大学、学校現場、教育委員会が連携して、より実践的な指導力や教職への情熱を高め、教員養成の高度化・実質化を図ろうとしました。

その一環として、教員内定者を対象とした「教師準備期プログラム」の企画を進めました。幸い、文部科学省の事業に採択され、6名の方に講師をお願いして、教師力のみならず、総合的な人間力や生きていく上での勇氣や希望を実感できる講座を実施することができました。聴講して下さった方々からは、それぞれの講師の方々の生き様からも多くの生きる力やヒントをもらい、教員としての新生活に期待や意欲を感じることができたという感想も多く寄せられました。

今回は初めての試みでしたが、私達自身も教育現場や大学教育ではなかなか得られない貴重な学びをさせて頂き、実り多い事業となりました。本事業の成果を検証し、次年度以降も是非とも継続していきたい事業であると確信しております。

最後に、本事業を採択して下さった文部科学省は勿論のこと、企画・実施に関わって下さった多くの皆様や県内外から参加して下さいました皆様に心よりお礼を申しあげたいと思います。

事業の概要

事業の背景・目的（文部科学省「公募要領」より）

「社会の激しい変動や学校教育が抱える課題の複雑・多様化等の中で、教員に対する揺るぎない信頼を確立し、世界のリーダーとなる日本人を育成できる力ある教員を養成するためには、大学における養成段階から教職生活全体を通じて、教員として必要な資質能力を向上させていくための施策を一体的に講じることが必要である。このため、地域の実態を踏まえつつ、教育委員会と大学をはじめとする関係機関が連携した、養成、採用、研修、管理職育成の各段階における先導的取組を支援する」

プレ講座の目的（公募書類より抜粋）

「富山県公立学校教員内定者を対象とし、教員に必要な高いコミュニケーション能力・対人関係力・授業実践力などのベースとなる社会人基礎力や豊かな人間性の涵養に役立つ教師準備期講座（プレ講座）を開設し、新しく教員になる学生が自信を持って教壇に立てるよう支援する」

県教育委員会と大学との連携（本事業開始以前の実績）

富山県教育委員会と富山大学人間発達科学部は平成18年に「富山県教育委員会と国立大学法人富山大学人間発達科学部との連携協力に関する覚書」を締結し、年2回の連絡協議会を通じ、双方の人的・知的資源を活用することで富山県における学校教育の一層の充実・発展を図るための様々な事業を展開してきました。特に教員を目指す学生には、1年次から教育現場において学習相談、授業支援（実験の補助や教材作成の手伝いなど）、障害を有する児童生徒への支援などを直接体験させており、それらが教職に対する高い動機付けと教職課程の学びに対する真剣な姿勢をもたらしています。また相互に客員教員を送り合うなど、研究調査の面でも密接な連携を図り、様々な成果を上げています。

本講座はこのような連携協力事業の一つとして新たにつけ加えられたものです。

富山型教員養成プログラムにおける教員採用内定者を対象とした
教師準備期プログラム

文部科学省「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」

教師準備プレ講座

(平成25年度)

への御招待

4月から教壇に立つみなさんへ

参加
無料



第1回 **11/30** ±
14:00~17:00

第2回 **12/14** ±
14:00~17:00

第3回 **H26 2/15** ±
14:00~17:00

会場 **パレブラン高志会館** カルチャーホール

メッセージ

この講座は、富山県公立学校教員に採用が内定しているみなさんに、教員に必要な高いコミュニケーション能力・対人関係力・授業実践力などのベースとなる社会人基礎力や豊かな人間性の涵養に役立つような講座を聴いて頂き、4月から自信を持って教壇に立つてもらえるよう支援するものです。

6つの講座の中から興味の持てるものを選んで聴講して下さい。聴講は自由です。いくつ選んでも構いません。ますます複雑化する社会の中で、学校の先生に対しても今まで以上に多様な資質や能力が求められるようになってきています。今回用意した講座の講師の方々は、いずれも優れた人間力・社会人を基に複雑な要因や様々な人間関係が交錯する現場で活躍しておられる方々です。どのお話も、これから先生になるみなさんにとっても役に立つものとなるはずです。どうぞ積極的に参加してください。

お願い

資料の準備のため、講座ごとの聴講希望者数を知りたいと思います。同封されている「聴講希望講座調べ」に記入の上、同封されている返信用封筒を用いて10月31日までに返送してください。

なお、「聴講希望講座調べ」に記される個人情報については、富山県教育委員会が一括管理し、プレ講座の実施と関係のないことには一切用いません。また、講座のコーディネート等を行う富山大学人間発達科学部にも個人情報は提供されません。

第1回

11月30日(土) 14:00~17:00

会場●パレプラン高志会館 カルチャーホール

挨拶

富山県教育委員会教育長

寺井 幹男

富山大学人間発達科学部長

神川 康子

講座 I

14:10~15:25



講師

IHG・ANA・ホテルズグループジャパン

北海道・北陸地区担当

インバウンドセールス シニアセールスマネージャー 村田真理子氏

富山県 入善町出身

趣味 ランニング(皇居ランナー歴2年、市民マラソン大会に出場しています)

海外旅行(以前は欧州、最近はアジア)

メッセージ

生きることは挑戦すること! 幸せな人生を

『人の行く 裏に道あり 花の山』

講座 II

15:35~16:50



講師

(株)牧田組代表取締役社長 牧田 和樹氏

射水商工会議所会頭(全国最年少)。富山経済同友会常任幹事(教育問題委員会担当)。富山大学人間発達科学部附属学園評議員。小・中・高PTA役員歴任(文部科学大臣賞受賞)。

メッセージ

「井の中の蛙」にならないための、人間社会の原理原則をお伝えします。

講座Ⅲ

14:00~15:20



講師 睡眠コンサルタント・インナービューティーアドバイザー **友野 なお氏**

「食」と「睡眠」の専門知識を持ち、両面から体内美容を極める日本で第一人者。14歳から6年間単身渡英。大学在学中スペイン留学を経験し、帰国後ミス日本に入賞。2006年には「東京ディズニーリゾート・アンバサダー(親善大使)」に約2万人の中から選出。現在は「渋谷スキンクリニック」にて患者の睡眠のカウンセリングを行うと同時に、都内にあるアンチエイジングクリニックや病院の看護師育成・スキルアップサポートの他、企業や大学、スポーツ選手へのヘルスサポート研修なども行う。著書に「眠活」「履いて快眠ゆるソックスダイエット」などがある。東日本大震災後、被災地の眠りをサポートする「南相馬ぐっすりプロジェクト」を主催。

メッセージ

心身の健康維持や学力向上において、正しい睡眠の知識は欠かせません。ぜひこの機会に眠りに関する知識を深めると同時に、社会人として私個人の経験談をお話する中で「人との向き合い方」について何かしら今後活かせるヒントを得ていただければと思います。

講座Ⅳ

15:30~16:50



講師 富山大学人間発達科学部附属小学校主幹教諭 **澤柿 教淳氏**

富山県内の教員として初めて南極観測に同行。衛星回線を使って富山の子もたちに南極の環境や夢を追うことのロマンを伝える。

メッセージ

本当に「地球はまるい」のでしょうか。南大洋の向こうには、「地の果て」がありました。南極では「何でも凍る」のでしょうか。南極では「時」が凍っています。

講座Ⅴ

14:00~15:20



講師 お茶の水女子大学理事・副学長 **耳塚 寛明氏**

お茶の水女子大学理事・副学長(教授)。専門は教育社会学。『学力格差に挑む』(2013, 金子書房)など近年は学力の社会学に取り組んでいる。

メッセージ

当日は、「教育格差を考える」というテーマで、学力格差が生じるメカニズムについて講義を準備しています。富山の学校教育の内部にとどまらない広い視野を持って、教育実践に取り組んでほしいと期待しています。教職生活を通して、世界を新しいものとするための教育を探究し、世界に提案していただきたいと思います。

講座Ⅵ

15:30~16:50



講師 株式会社インテック最高顧問 **中尾 哲雄氏**

富山を代表する財界人の一人。株式会社インテック社長、会長を経て現在は最高顧問。(日本)テレコムサービス協会会長、県教育委員長(代)、経済同友会代表幹事等を歴任。ふるさと教育推進協議会会長、県立大学客員教授、富山大学客員教授等公職多数。

メッセージ

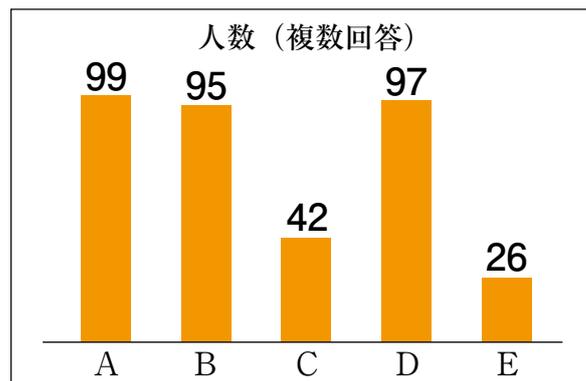
教師には知識以上に人間的魅力が重要である。そのために学び、真の教師になっていただきたい。

事前アンケート

内定者のみなさんに講座案内（パンフレット）を送る際、「事前アンケート」という形で「教師になることを考えた時に感じる不安等」について選択式で答えてもらいました（A～Eの5つから選択、いくつでも可）。また不安等の具体的内容についても自由記述形式で回答してもらいました。以下はその結果をまとめたものです。（この結果は各講師にお知らせし、講演の参考にして頂きました。）

感じている不安等

- A 児童・生徒の気持ちを理解し上手にコミュニケーションできるか
- B 保護者と良い関係を築くことができるか
- C 同僚の先生方とうまくやっていけるか
- D 授業がうまく出来るか
- E その他（自分の時間、クラブ活動、など）



不安等の具体的内容で多かった項目（◎は特に多かった項目）

- 地域に溶け込めるか（他県出身者）
- 保護者との関係（モンスターペアレント対応、どこまで相手の希望を取り入れるのか、教育もサービス業か、電話の対応が苦手など）
- 子育てや家庭生活との両立（部活動の負担など）
- 魅力ある授業（生徒を引きつけられるか、苦手教科、準備の時間はあるか、など）
- 学級経営（問題行動の児童生徒など）
- 学生の間にしておくべきことは？
- 自分の精神的肉体的健康を保つには？
- 休日をどう過ごせば良いか
- SNSを使っている児童生徒との接し方
- 一人で大丈夫か（保健室の先生など）

当日の様子





要旨

私はこれまで次々と新しいことにチャレンジしてきましたが、その全てが人と関わる仕事でした。その中で社会人として心がけていることはアイデンティティを持つということです。ニューヨークに滞在していた時に“*What is your religion?*”と訊かれたことがあります。宗教も含めアイデンティティを持つことが大事だということに気づかされました。

コミュニケーションの1つの目的は人を動かすことです。そのためには実際に相手の元に出向き、会って話をするのが効果的です。自分がまず行動を起こすことで相手も行動に駆り立てることができます。

また趣味で始めたマラソンで、仲間の大切さや様々なネットワークを作り視野を広げること、さらに挫けない力を持つことの大切さを学び、それが仕事にも活かされています。「引き寄せの法則」というのがあります。自分の願いを強くイメージし続けるとそのようになる、というものです。普段から良いイメージを描いていれば、いずれそうなります。Break Through! (切り開く。) アイデンティティを持って勇気を持って行動して下さい。そこから素敵なコミュニケーションが生まれます。Think Globally. Act Globally.

(この要旨は聴講時のメモを基に講座の内容をまとめたものであり、講師自身の言葉の通りではありません。)



感想

村田さんのエネルギッシュな講演から、本当に今の職業が好きで誇りを持っていらっしゃるということが伝わりました。

海外営業の時に浴衣を着ることは「日本人にしか出来ないこと」と言われていましたが、これは「私にしか出来ないこと」にも言い換えられると思います。教師として「私にしか出来ないこと」を見つけて行こうと思いました。

また、趣味のお話も興味深かったです。やはりONとOFF、メリハリがあることが、仕事を続けたり楽しんだりする秘訣なのでしょうね。

このような講演の機会を設けて頂きありがとうございました。

村田先生から、今の仕事に就かれるまでのことや仕事で実際に体験したことについて聞かせて頂き、本当に貴重な機会となりました。特に私はコミュニケーションについて自分でも不安を感じていたので、村田先生のお話を聞くことができ、将来への自信につながりました。

これから社会人として、教師として、様々な分野にアンテナを張って、知識や経験を増やしていきたいと思います。ありがとうございました。

村田先生のお話はとても新鮮でした。村田さんもおっしゃっていましたが、異業種の方と関わることは大事だと思いました。また「願いを持ち続ける人」にもなりたいたと思いました。現状に満足したり、あきらめの気持ちを持つのではなく、常に願いや目標を持って行動していきたいです。

何事もチャンスと捉え行動することが大切だと感じました。貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

コミュニケーション能力の大きさを知りました。営業職や教員は相手がある仕事なのでコミュニケーションが重要だと思います。またアイデア一つでそれが上手く進むということも感じました。「コミュニケーションの目的は人を動かすこと、行動に駆り立てること」という言葉が印象に残りました。

講座が終わった後も、質問された方と丁寧にお話をされていたのがとても印象に残りました。一人一人と丁寧に向き合うことでこのような実績を残してこられたことが良く分かりました。私も教員として一人一人と丁寧に向き合っていきたいです。

アイデンティティを持つという話に感銘を受けました。

子どもたちの将来を担う教師にとって、自分の考えをしっかりと持つことはやはり大切なことだと思いました。子どもたちに、自分はこういう人間だ、と言えるようになりたいです。そうなれば子どもと教師が認め合い、良い信頼関係を築けるのかな... と。

自分の将来と照らし合わせながらお話を聞かせていただきました。貴重なお話をありがとうございました。



要旨

事前アンケートで保護者との関係を心配しているものが多かったと聞きました。そこで企業と顧客の関係を基に学校というものを考えてみると良いと思います。企業は顧客にサービスを提供し、顧客はそれに対価を払います。学校は教育を通して国や社会に良き市民を送り出し、そのために税金が使われます。保護者は学校と同じ側に立ち、学校と協力して良き市民を社会に送り出す責任を持っています。そのことを教師がしっかり理解し保護者と関わっていくことが大切です。

教員に限らず全ての仕事において必要な力（仕事力）として、責任感、コミュニケーション力、専門性があります。責任感とは組織の中でやらなければならないことは必ずやるという心構えです。コミュニケーションで大切なことは双方向の意思疎通が成立することであり、そのためにはまず相手のことを考えること、For You の視点です。For Me の視点が入ると生徒を集団で見えるようになり、一人一人と向き合うことが出来なくなります。専門性は知識と経験の掛け合わせです。教員になるみなさんは、子供たちのためにこの3つの力を常に意識し高めていくよう努力して下さい。あなたにとって一人の生徒は30人の中の一人かもしれませんが、生徒にとって先生はあなた一人です。生徒との関係にあっては常に一人対一人を心がけて下さい。

(この要旨は聴講時のメモを基に講座の内容をまとめたものであり、講師自身の言葉の通りではありません。)



感想

牧田先生のお話を聴いて「責任感を持って一生懸命やるしかない！」という気持ちになりました。

「コミュニケーションは相手を認めることが基本」というお話が心に残っています。子どもとかかわる時も、保護者とかかわる時も、常に相手を思いやる姿勢をみせることが信頼感にもつながると思いました。一人一人に想いや願いがあると思うので、その想いや願いをしっかり聞ける教師になりたいと思います。

貴重なお話を聴かせていただき、ありがとうございました。

牧田先生には、教員に必要な能力についてお話をしていただきました。私が抱えていた不安が、責任感・コミュニケーション力・専門性の3つの仕事力に通じていたことが分かり、将来に対する希望ややる気が増しました。

どんな時でも学校という組織の一員であることを忘れず、自分の専門性を磨き続けていきたいです。また私自身不安だった「コミュニケーション」に関しても、思いやりの心を持ち続けながら前向きに取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。

私も事前アンケートの自由記述欄に「モンスターペアレントへの対応が心配」と書いたのですが、牧田さんのお話の中で、親やPTAは子どもと一緒に育てていく仲間である、と聞いて、少しイメージが変わりました。子どもを大切に思うからこそモンスターペアレントになってしまう親は多いと思います。そんな気持ちを相手の目線からとらえ、相手の思いを汲み取り対応すること（For You）が出来れば、モンスターペアレントは協力者（仲間）になるのではないかと感じました。

学校と国家の図も初めて見て驚きました。とても勉強になりました。

聴衆参加型の講義で楽しい時間でした。発問がたくさんあり、常に考えながらお話を聞かせて頂きました。特に印象に残ったのは、保護者は学校の一番の協力者ということです。私は保護者とトラブルが起きたらどうしようというマイナスの面ばかり考えていました。この思考転換は自分にとって良い刺激になりました。ありがとうございました。

仕事をする上で、責任感、コミュニケーション力、専門性の3つが必要不可欠であることを知りました。中でも、コミュニケーションでは、自分の一方的な発信になるのではなく、相手から返事を得る、反応を自分に向けさせることも大事なのだということを再確認することができました。牧田先生は、私たちの不安や悩みについても一つひとつ丁寧に助言を下さり、それらを取り除いて下さったと思います。

社会の一員になることは簡単ではありませんが、今日の講座の内容を忘れず、困難に立ち向かい真摯に対応して行きたいと思います。



要旨

眠りは心身の健康だけでなく学力とも直接関係しています。にもかかわらず、現代ではほぼ70%の人が睡眠に何らかの問題を抱えていると言われていています。睡眠の質を高めるためには〈睡眠前1時間+睡眠中7時間30分+起床後30分〉の9時間の「眠活」をすることが大切です。良い睡眠は、心身の健康、学力、コミュニケーション能力などの全ての基礎となるものです。

私は14歳の時一人でイギリスに留学しました。いじめもあったりして大変苦労しましたが、私のことを信じ期待し応援してくれる先生が一人いました。本当に自分のことを信じて一生懸命応援してくれる人がいるとき、頑張れない人はいません。その先生から、限界を超える努力をした先には素晴らしいものが待っているということ、コミュニケーションは心が無ければ絶対通じないということ学びました。先生は私に魔法をかけて下さったのです。みなさんも先生になった時、無条件に生徒さん達を信じてあげて下さい。

ディズニーの親善大使をしていた時、たくさんの施設や病院を訪問し様々な奇跡を目の当たりにしました。奇跡が起きるのは本当に純粋な思いがあったり、自分の限界を超える努力をした時だけです。それは人の心に残りその人の人生を変えていきます。私たちは知らずに自分の体を鎖で縛っていることがあります。勇気を振り絞って、志をどこまでも高く持ち、一人一人の生徒さん達に向き合ってあげて下さい。

(この要旨は聴講時のメモを基に講座の内容をまとめたものであり、講師自身の言葉の通りではありません。)



感想

睡眠の大切さについて考えさせられました。日中の活動の質と睡眠の関係を考えたことも今までありませんでしたので、普段の生活を見直してみるということも含め、自分だけでなくこれから出会う子どもたちにも役に立つお話だと思いました。

後半、過去の辛い体験を私たちのために懸命に語って下さったことに感動しました。教育の現場ではこれから難しいことに数多く直面すると思いますが、子どもが好きでこの仕事に就こうとしているので、どの子どもも大切に守ってあげられる人間に成長していきたいと思いました。

友野先生のイギリスでの経験談がとても心に残っています。「一人でも自分のことを信じてくれる人がいると思えば、どんなことでも頑張ることができる」という言葉に感動するとともに、励まされました。

教員になることに不安もあったのですが、この言葉を聞いて「子どものことを信じてくれる先生になろう」と思いました。全員が友野先生のように思うわけではないと思いますが、「一生懸命がんばろう」「先生のことなら信じてみようかな」「先生といると安心できるなあ」と思ってくれる子どもが少しでもいればいいなと思います。

ありがとうございました。

睡眠の話では、保健指導や保健学習にぜひ役立てたい知識がたくさん得られ、とても参考になりました。寝室を例にしてリラックスできる空間について話して下さいましたが、これは保健室についても活かしていけることだと感じました。毎日きちっとというわけにはいかないと思いますが、1週間スパンで考え、気楽にストレスを溜めないように工夫していきたいです。

後半のコミュニケーションの話は教師になる私たちに希望を与えてくれるものでした。「無条件にその子の可能性を信じることを心にとめて、児童生徒と関わって行きたいと思います。

睡眠について知らなかったことをたくさん勉強できたので、自分の生活の中にそれを取り入れて充実した教員生活を送れるようにしたいと思いました。

先生自身の体験談（留学してから困難を乗り越えるまでのお話）はとても印象的で心に響きました。また「心がないと伝わらない」「人を信じる大切さ」など、先生の言葉の一つひとつが力強く、たくさんの勇気をいただきました。

教師として、人として、大事なことを確認させて頂いて、本当に感謝しています。

「信じてくれる人が一人いれば奇跡も起こせる」というお話を聴き、自分もそうだったなと感じました。私も高校の時の先生が「あなたならできる」と言ってくれたおかげで頑張ってきました。今度は自分が信じる時だ、と強く思いました。自分の子どもへの関わり方次第で子どもは変わっていく。自分が関わる子どもたちの無限の可能性を信じていきたいと思います。

貴重なお話、本当にありがとうございました！



要旨

私は何でも自分で作ることが好きで、教材もいろいろ工夫して自作します。市販の教材に比べ大変な手間が掛かり見栄えも悪いですが、なぜか子供たちはこちらの方を喜びます。自作教材の七不思議です。南極でも手作り教材を使用しました。手作りの良いところはどこでも対応できるということです。労力は余計掛かりますが、教室ではそれが何倍にもなって返ってきます。手作り教材は裏切りません。

アムンゼンとスコットは違うタイプのリーダーですがどちらが好きですか、ペンギンはなぜあんな歩き方をするのでしょう、温暖化で南極の氷が溶けていると言われていますが最新の砕氷船が苦勞しているのはなぜでしょう、子供を本気にさせるには大人も本当に迷ってしまうような疑問を投げかける必要があります。(この間、透明のプラスチックコップに入れられた南極の氷が参加者に配られ、氷に閉じ込められた気泡が弾ける神秘の音を聴かせてもらいました。)

南極ではみんなが新しいことに色々チャレンジします。失敗もたくさんあります。理科の教員である自分が南極に来た意味は何だろう、と考えた時、それは「このような失敗の中にこそ学ぶべきことがたくさんある」ということを子供たちに伝えるためだったのではないか、そう思うことが出来ました。みなさんも教員人生を謳歌して下さい。

(この要旨は聴講時のメモを基に講座の内容をまとめたものであり、講師自身の言葉の通りではありません。)



感想

澤柿先生の南極のお話やビデオはとても壮大で、「こんな世界もあったんだ！ まだまだ知らない世界がたくさんあるなあ」と思いました。先生のお話を聴いて、教師になってからも夢を持ち続けたり挑戦したりする人でありたいと思えました。

人間として魅力的な人は、子どもから見ても、新しいことを教えてくれたり、ワクワクさせてくれたりする存在だと思います。

手作り教材もとても素晴らしいと思えました。子どもたちに「疑問を持たせたい、ワクワクさせたい」という思いで教材を作っていくことの大切さを実感しました。

ありがとうございました。

南極観測隊の自己紹介のやり方を使って自己紹介をしながら体験や考えを話されたせい、私には縁の遠い南極が急に身近に感じられるようになったことに驚きました。たくさんの自作教材を準備され、小さな実験を行いながら進んだところで、先生が南極の映像に登場し、同じ教材で同じ実験をされたからかもしれません。太陽電池でおもちゃの電車が元気よく走るシーンで心が一気に南極へ持っていかれました。

自作教材の効果も同様なのではないかと思います。教材の一部に日頃から見慣れているものが使われていると興味が惹かれると思います。そして自作の教材は一人一人の子どもの期待を裏切らない動きをするのだろうと想像しました。私もそんな丁寧な仕事のできる教師になりたいと思いました。

「手作り教材」と「本物を見せる」ということが子どもたちを本気にさせるのだなと感じました。教材を手作りすることで、教師自身の授業スタイルや子どもの実態に合わせて工夫することができると思います。また手作りならではのあたたかみや先生の思いも伝わってきました。私もいろいろなものに興味をもってチャレンジしていける先生になりたいです。貴重なお話をありがとうございました。

久しぶりに、参観するのではなく、小学校の授業を受けさせてもらい、とても感心したり楽しんだりすることができました。手作り教材を使い、好奇心が高まる工夫もあり、氷比べのようなペアワークなど、参考にさせて頂きたいことがたくさんありました。

南極滞在記、とても素敵でした。いくつになっても夢を持っていたいと思われされました。BGMも素敵で楽しい授業でした。ありがとうございました。

先生の手作り教材の数々、本当に素晴らしいものばかりで、子どもたちは楽しみながら学んでいくんだろうと感じました。私もこれからさらに子どもたちの学びが豊かになるよう教材研究に励んでいきたいと思いました。

南極での体験の中で、ある大学の先生の失敗から学んだというお話、すごく感動しました。成功するという事は大事な事だけど、失敗から考えること、それが成長のために一番大切なことではないかと思いました。自分で乗り越えて行くことで人はより強くなれる、そう感じました。

自分もこれからいろんな壁にぶつかるとは思いますが、反省し、成長できるようにやっていきたいです。

本当にありがとうございました。



要旨

学力格差には様々な側面があります。昭和の頃までは地域の経済水準が学力に大きな影響を与えていましたが、平成になって地域（の経済水準）と学力はほとんど相関を示さなくなり、代わりに家庭的背景が影響力を持ち始めました。全く別の次元に入ったと言えます。

ではどのように家庭的背景が学力に影響するのでしょうか。従来ほとんど行われてこなかった保護者への調査の結果、「学校外教育費」「保護者の学歴期待」「家庭の所得」「母親の学歴」の4つが学力を規定する要因となっていることが分かりました。努力（学習時間）も影響しますが、その効果は限定的でした。これは大変ショッキングな結果であったと思います。

また中学校になると、特定の層が公立システム（公立学校）から脱出してしまっているのですが、その多くは学校外教育投資支出の多い家庭の子供であり、受験塾に通い、学力の高い子供たちでした。国立の医学部は、近年急速に私立の中高一貫校出身者による寡占状態になってきています。私立の中高一貫校が多くある大都市に居住し早い段階から塾に通わせる、という選択をするのは親であり、それを可能にするのは経済力なのです。家庭の富と親の願望が子供の将来を左右する（モノを言う）社会が来ているのかもしれませんが。

学力格差は格差社会に起因する社会問題です。みなさんは子供たちへの教育を通してこの世界を新しいものに作り変えていくことのできる存在です。そして、みなさんが育てる子供たちはもっとそれができる存在になって欲しい。そう強く願っています。

（この要旨は聴講時のメモを基に講座の内容をまとめたものであり、講師自身の言葉の通りではありません。）

感想

たくさんの資料と貴重なデータを見せて頂きありがとうございました。特に「世帯所得と学力の相関」「努力の効果は限定的」は衝撃的で、とても残念で悲しく思いました。

データを見て「そんなことはない。きっと努力したら必ず効果が出る」という思いを強く持ちました。そのために学校ができることのお話をもっと具体的にお聞きしたかったのですが、私たちがそれをこれから見つけていけたら良いなとも思いました。

努力を積み重ね、テストの点数だけでなく心の点数もしっかり上げていけるよう努力したいと思います。

2～3年前に大学の講義で、親が低所得や学歴が低い場合、負の遺産が続くというようなことを学んだことを思い出しました。

しかし、先生が講義の最後に言われた「文化的環境に恵まれず、お金に余裕の無い子供たちが勝利する機会は学校教育より他にはない」という言葉は、公立学校の教員になる身としては、はっとする思いでした。

子どもの教育の現状を知ることができて良かったです。

格差の問題は現実ですが、親のお金と学歴で子どもを計ることは悲しいことだと思いました。人間的な優しさやあたたかさなど、人として一番大切なものは数値では表せないと思います。

厳しい現状を理解して、子どもにとって格差がハンデにならないよう、学校教育の中でのサポートをしっかりとやっていきたいと思いました。

貴重な講義をありがとうございました。

教育の平等が謳われていながら、実際には家庭環境の相違などから格差が生まれており、そういった背景も知らずに単に「勉強しなさい」というだけでは、生徒の心には響かないのだろうな、と感じました。

実際に教壇に立った時、子どもたちをどのように見て、どのように学力の向上を図っていくか、慎重に考えなければいけない問題だと思いました。

なんとなく学力格差が社会問題になっているなどは思っていました、ここまで深刻な事態になっているとは想像していませんでした。

学んでいろいろな知識を得ることに喜びや感動を覚えない子どもはいないと思います。文化的環境に恵まれず、学校外教育にお金をかける余裕のない家庭の子どもたちであっても、学力が向上し、常に学び続けるための関心や意欲・態度を持ち続けられるよう、学校教育において丁寧に学力の底上げを図っていかねばならないと思いました。





要旨

戦時中、疎開する途中で新潟県の犀潟駅というところで見ず知らずの人にお世話になったことがあります。きちんとお礼を言ったかどうか気になって何年かして訪ねて行きましたが会えませんでした。私たちはいろいろな人のお世話になって生活しています。それを認識し「ありがとう」という気持ちを持つことが大事です。我が家には7つのきまりがありますが、その1つ目が「ありがとうと言うこと」です。また私の会社の新入社員研修では自筆で親に感謝の手紙を書かせています。

私が経営の柱・理念としているのが「際（きわ）＝インター」です。国際化だけでなく、地域際化、世代際化、業際化など、いろいろなものを組み合わせることによって新しいものが生まれてきます。「際」を進める鍵は良好なコミュニケーションであり、コミュニケーションの基本はきちんと話してきちんと聴くことです。数え切れないほど失敗もありましたが、苦境の中で蒔いた種の方が成功に繋がっています。

人気ではなく人望を得るよう努力して下さい。見識を蓄え、風格・気品のあふれる「心香る人」になって下さい。地方には豊かな時間があります。時は流れ去るのではなく蓄えられていきます。

高校生の時、成績が落ちて元気が無かった私に英語の先生が声を掛けて下さって“Hope is the twinkle star in the sky. If you drop your head, you can't see that.”と励まして下さいました。その先生は今でも私のことを気にかけて下さっています。みなさんも自分の生徒さんたちと良い関係を築いて下さい。先生は素晴らしい職業です。誇りを持って取り組んで下さい。

(この要旨は聴講時のメモを基に講座の内容をまとめたものであり、講師自身の言葉の通りではありません。)

感想



情報関係の会社の方ということで、そういった話が出てくるのかなと思っていましたが、人間的なあたたかみのある話で驚きました。

人としての基本的な心のあり方、リーダーとしての心構え、広い視野を持つことなど、一つひとつに説得力があり心に響きました。感謝の気持ちを持ち、志を高く、4月からの教員生活をスタートさせていこうと思います。ありがとうございました。

携帯電話やパソコンのメールでいろいろな人とのやり取りは身近になったと感じますが、「言葉の重み」は確かに薄れてきているのではないかと思いました。そんな中で、両親への手紙という課題はとても素敵だと感じました。

最後にお話しして下さった師弟関係、本当に素晴らしい関係だと思いました。それと同時に、教師の言葉一つで子どもの人生が変わることもあるということに大変責任を感じました。その責任を果たせるような教師になれるよう、自分にできることを一生懸命やっていきたいです。

貴重なお話、本当にありがとうございました。

なかなか民間企業の方のお話を聞く機会がないので、富山を代表する財界人の中尾さんのお話を聴くことができ本当に良かったです。

「富山県は時間が豊かである」「時は過ぎ去るではなく、砂時計のように蓄積されていくもの」この2つの言葉が心に響きました。

貴重なお話をたくさんして頂き、ありがとうございました。中尾先生のお話を聴いて、教員になることに不安を抱いていた自分が元気になりました。お話し下さった一つひとつのことを日頃から大切に、社会人として教員として自分を磨いていきたいと思います。

「人気よりも人望を」というお話が、なるほどそうだな、と思いました。私自身、講師を続ける中、最近になってやっと、子どもたちが社会に出た時のことを考え、じっくり向き合い“厳しさ”を分けられるようになってきました。嫌われることを恐れるのではなく、その生徒のことを考え、より良い支援をしていくことの大切さを改めて感じました。

また“疑問に思うこと”は自分を成長させる種になる、と言われた言葉がとても心に残りました。自分もこの種まきがしっかりできる教師になりたいです。

とても楽しくお話を聞かせて頂きました。

感謝を伝えるだけでなく、自分の思いを伝えることも大事なことだと改めて感じました。またその手段にもこだわっていきたいです。

最後に「教師とは素晴らしい仕事だ。誇りを持ってやって下さい」とおっしゃっていただき、とてもうれしかったです。

ありがとうございました。

おわりに

今回、プレ講座を実施するにあたり、事前アンケートや講座の感想などを通して、教員に内定されたみなさんが教壇に立たれる直前のこの時期をどのような思いを持って過ごしておられるのか、多少なりとも知ることが出来たように思います。

その中で特に目を惹いたのは、「教師として周りの人々、特に児童生徒とその保護者と上手にコミュニケーションしていけるだろうか」という不安でした。教師を志す人はどちらかといえば対人コミュニケーションは得意（好き）な方であるはずですが、にもかかわらず、この直前の時期にこのような不安を抱いている人が多いということに、教育の今日的課題の一端を垣間見ることが出来ます。

しかし見方を変えれば、教師になる人は皆「児童生徒やその保護者とのコミュニケーションは全人的なものでなければならない」ということを無意識に感じているのだと言えるのかもしれませんが。表面的な関わり方で済まそうとするとところに不安は生じないからです。

そのような意味で、本プレ講座が教育界に限らず広く様々な分野から講師を招聘し、社会人としての基礎力や目標を持って努力することの大切さなどを体験的に語って頂けたことは、非常に価値あることであつたと思います。

本講座は始まったばかりです。今後はこの講座を聴いて下さったみなさんに「教壇に立たれた時にこの講座は助けとなりましたか」と訊いてみたいと思っています。そしてそれを次年度以降の講座の企画に役立てたいと考えています。また、本報告書を手にとって下さったみなさまからも御助言等を頂くことが出来れば、これほど嬉しいことはありません。

最後になりましたが、本事業を実施する機会を与えて下さいました文部科学省初等中等教育局教職員課改革推進係の方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

御意見・ご感想をお寄せ下さい。

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学人間発達科学部
教師準備プレ講座担当 (ogihara@edu.u-toyama.ac.jp)

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、国立大学法人富山大学が実施した平成25年度「教育の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。



富山大学人間発達科学部

〒930-8555 富山市五福 3190 電話 076(445)6251